

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「知って行わざるは知らざるに同じ」という言葉があります。江戸時代の儒学者、貝原益軒のものですが、中国の王陽明の「知行合一」と同じであると言われています。

ここに「知る」の定義が求められます。

知ると、単純な場合は記憶するだけで行えますが、高度なものについては、「単に記憶している」——「行えない」となります。しかし、「真意を理解している」——「行える」のだと解釈できます。つまり、いかなる場合であっても、真意を理解しているならば、行わざるを得ないのだということになります。

知るとは、そのように行動を伴うものであると解釈されるのです。行動を伴わないものは、知っていないからだと解釈されます。

幕末の天才である吉田松陰は、この言葉を掛け軸に掲げて実践した一人でした。

上述のことは、時々触れているのですが、それは、アダムスキーの伝えた「生命の科学」が、真意を理解することで実践につなげることが必須であるからです。

「生命の科学」を読んで記憶するだけでも、他人に伝えるのであれば意味がありますが、真意を理解して、自分のものとして自然と実践する。そして、出来れば他人へ伝えていくなれば、本来の意味を理解していることになるでしょう。

それではなぜ、そのようにならないのでしょうか？

それは、理解していないからということになります。「生命の科学」を読んで、単に記憶するのではなく、常に地球上での様々な現状と比較・分析しながら理解していく必要があります。例えば、「最小の分子でさえも英知を有する」と書いてあれば、宇宙の意識の共通の創造物として人体をはじめ、地球自体や植物、動物は当然のこと、石ころなどの無機物さえも原子から出来ていることに気づき、英知を有することを理解する必要があります。但し、動植物との違いも同時に理解するなど、そのような分析を常に行いながら真意を理解していくことが必要なのです。

“言葉に注目”

＜この希望のメッセージを伝えている他の人々の声にあなたの声を合流させなさい＞

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが金星の母船に乗船した際、偉大な指導者から伝えられた言葉です。希望のメッセージとは、この会見中に伝えられた事柄です。例えば、太陽系の惑星から順次12個単位で構成され、銀河も12単位で構成され無限であること。そこに多くの館があり、地球人が想像できないほど進歩した人々がいる。原爆の開発や実験は危険なので、啓発を義務として行っていて、「喜んで援助の手を差し伸べて、受入れようとしている人のすべてに私たちの知識を伝えようとしている」こと、また、ユートピアは存在する、地球人に悪いものは何もないが幼児である、変化は早く起こる、受容的な人は出てくるかもしれない、などです。

そして、「友よ。これは急ぐのです。」と、60年以上も前に語っているわけです。

「生命の科学」学習のポイントPart71

今回は、レクチャー7 『宇宙の記憶』の5回目、「永遠の記憶を保つに」です。

冒頭、意識について、様々な個体を生み出す万物の父母と語ります。そして、「内部には、設計図または記憶が常に存在していて、必要なときには・・・引き出して照覧することができます。」と書いています。しかし、心だけではこれではできず、意識と心の組み合わせが必要だとしています。その理由として、心は結果から学んでいるので、今後は、原因から理解しなければだめだと言います。ここで、理解する自分はどこにあるのかという疑問もわきます。ここは、意識の一部の“魂”という概念で考えると理解しやすいところです。

また、心はコースマインド（因の心＝意識の心）が意図したとおりに遂行しない場合は過失が生じるが、恩寵の法則により修正の機会があると言って、進歩がなされる前に修正せよとしています。事前に修正されないと、宇宙的な記憶として残らないということです。ここで、意識は人の心に意図をもって指示をしていること、解釈を誤る場合は修正の機会を与えていること、心は意識の指示に従うことが役割であること、宇宙的記憶は、宇宙的に意味のある記憶であるということが推測できそうです。

続いて、「永遠の記憶を持ち続け、神すなわち“至上なる意識”の似姿になるためには、人間はそれを（意識を）生かし、配偶者とともに生活をすごすように生涯の伴侶とともに生活しなければなりません。」と書いています。そして、自分のみ考えないで、もう一方の意識をも考えて、調和ある一体性を生み出すことが意識と心の混和であると言います。

このような、心と意識の結婚は、ライオンと小羊とが仲よく横たわっている姿で描かれているということです。こうなると、記憶の書が開かれてくるということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編71>

“ 尊い寺は門から知れる ”

人々の信仰を集める尊い寺は、山門の構えからして立派で、ありがたみを感じさせるものです。尊いもの、価値の高いもの、徳をそなえた人などは、外見だけでそれが分かるというたとえです。私たちも、外見だけで、そのように分かるようではなならないでしょう。

Q：世の中は良くなっているの？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：科学的な分野では、かつてないほどに発展しているでしょう。これらは、宇宙の意識と繋がらなくては実現しないことばかりです。一方、精神的な分野、特に、哲学的な思考は後退しているように感じます。この溝を埋めなくては、良い世の中にはならないでしょう。

書物紹介

『宇宙戦争を告げる UFO』 佐藤 守著 講談社

本書は、以前紹介した元航空自衛隊空将 佐藤守氏の UFO 関係では2冊目の著書です。UFO 問題では素人の佐藤氏でしたが、1冊目の「実録・自衛隊パイロットたちが目撃した UFO」以来、UFO や宇宙人問題を研究する人々とのつながりを通し、様々なことが分かってきたようです。アダムスキー関係者なら知っていることも多い部分もありますが、新たな UFO 等研究者の存在や、新たな解釈、目撃報告などもあり参考になる1冊でした。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 9月8日（土）、11月17日（土）、平成31年1月12日（土）、3月16日（土）、5月11日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

宇宙開発をはじめ、分子生物学や哲学的な分野でアダムスキーが正しいことが理解されます。世間が認める日が近いと感じています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第71号>

発行日 平成30年9月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（軸の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

古代中国の哲学は、世界最高であるとの評価があります。支那哲学と言われるもので、紀元前に活躍した孔子や老子を中心として、様々な思想家を総称して言っているものです。

特に、孔子と老子は巨人であり、中国最大の思想家であると言っても過言ではないでしょう。

孔子は、弟子、3千人もいたと言われ、庶民的で一般住民が理解できる簡易な表現で多くの言葉を残しています。弟子も可愛がり、弟子の家が焼けたといっは、その体を第一に考える優しい人で、弟子とともにひざを交えて語り合う愛情豊かな思想家でした。

一方、老子は、宇宙の摂理を解釈するような深遠な思想を展開し、弟子を持たず、孤高の人というような印象です。移動で関所を通る際に、役人から身分等を聞かれ、その事実として語ったという言葉が残されているものです。

若いころは、老子の言葉に興味を持ち、あの時代に宇宙的な視点で語ることから、大変偉大であると感じ惚れたものです。

しかし、年を経るうちに、孔子の偉大さに気づくようになりました。彼は、分かり易い言葉で、いかに生きるべきかを万人に示していて、老子と比べ東洋に与えた影響力は絶大であると思います。“言近くして旨遠き者は善言也。”（善導大使）という言葉ありますが、孔子は正にこれに相当するものです。

真偽のほどは不明とされますが、孔子と老子が面会し、老子が孔子に対して、“虚栄心を捨てなさい、そんなもの何にもならないから。”と言ったとか。しかし、これは孔子に当てはまらないと考えますし、老子は、ややへそ曲がりやで偏屈であると思えなくもありません。

また、老子は、かつてのアダムスキーであったと言われていますが、私は違うのではないかと感じています。この話は、側近が推測して言ったもので、アダムスキーが直接に“老子。”であったと語ったのではないと思われます。いずれにしても、孔子の生き方は、宇宙的な生き方の実践であり、あのように宇宙の意識を伝えられたら素晴らしいと感じています。

“言葉に注目”

< 私たちはみな遂行しなければならない仕事をもって地球へ来たのです >

by G・アダムスキー著『UFO問答100』（中央アート出版社）

この言葉の次に、「したがって自分の記憶の一部をとどめている人たち（他の惑星の記憶を持つ人）は、“父の家（大宇宙）のこの館（地球）”の欠点を絶えず見出そうとするよりも、自分自身の理解と自分がここに存在する理由を探求するほうがよいでしょう。」と語っています。

そして、地球は、この太陽系の他の惑星に従属するものではなく、正当な地位を得ようとして地球がなしつつある進歩は、地球に住んでいる各個人にかかっているのだから心の中に喜びを持って努力しようと語っています。

ここでは、他の惑星の記憶を持っている人への戒めを含め、人々が将来の地球へ希望をもって進むべきであると言っているのです。

「生命の科学」学習のポイントPart72

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の6回目、「神の目、すなわち意識」です。

初めに、「われわれはこれまでに各種の宗教的信仰で、神はあらゆる行為を見ていると教えられてきました。しかし心はあらゆる結果（現象）の背後にある不可視な原因までも見抜かないことをわれわれは知っています。」と書いています。

ここまでは、「生命の科学」で説明される人間の心の特性から言えることで、結果は見るけれどもその原因を見ないというわけです。そこで、「このことは、人間は見なければならない物の半分を見ていないことを意味します。」と続けます。

そして、「しかし神の一結果としての人間は、神が見る物を見る可能性を持っているのです。」これができないのは、「われわれが生命を理解していないからです。」と書いています。

次に、イエスの言葉である「あなたがたは目を持っているが、見ない」とか「盲者が盲者を導く」を引用して、次のように説明します。「家が窓を持っているように、われわれは目を持っています。もし窓自体が話すことができれば、『私を通じてこそ森が描かれるのだ』と言うかもしれません。」と。もし鏡であっても、森を映すだけだということです。

ここで「見る」とは、結果である映像を見るとか映すということではなく、森であればその森の生命を見ることを書いています。

視覚器官は結果（現象）を映すだけで、その生命まで映さないと語り、最後に「何かを映すためには原因がなければなりません。」と書いています。つまり、生命を映さない（見えない）のは、生命を映す原因がないからだということです。この原因は、結果物を生み出した意識の中にありますので、意識と共に歩む（意識を使って見る）ことの重要性を言っているようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編72>

“ 総好かんを食う ”

みんなから嫌われ、相手にされなくなることです。人の集まりでは、意見の相違などから、ある個人等に対して周囲からこのようなことが良くあるものです。今のトランプ大統領も自国第一主義で、本来なら世界各国からこのような状況になっても不思議ではありません。



Q：この太陽系、地球以外は死の惑星？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、そのようなことが言われていました。しかし、惑星探査で着陸したのは金星と火星で、その回数もわずかです。これで何が分かるのかと疑問もありますが、最近では、氷や水の存在が知らされるようになりました。公表を避けていた部分が多いということでしょう。

書物紹介

『知らないと恥をかく世界の大問題9』 池上 彰 著 角川新書

本書は、池上彰氏のシリーズ最新号で、タイトルは「分断を生み出す1強政治」となっています。プロローグとして「分断、対立。その裏で進む1強政治」を説明し、章立て6章においてトランプ政権、イギリスのEU離脱、イスラム世界、北朝鮮危機と習近平の1強政治、人類が作り出した魔物（原爆）、安倍1強政治について、基本的なことから分かりやすく説明しています。初めて知るようなことも多く、今の世界を知る良い書物となるでしょう。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 11月17日（土）、平成31年1月12日（土）、3月16日（土）、5月11日（土）、7月6日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

HPを含め一つのことを書き続けるというのは、何の想いもなければいけないものではありません。もうしばらく、どうにかなりそうです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第72号>

発行日 平成30年11月10日

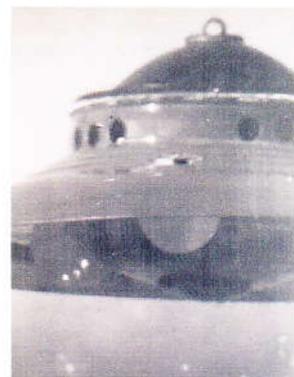
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会談者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（神の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキーによれば、特に金星や土星の人々は、病気などはせず、数百歳になっても若々しく、その生活は、花を道のように敷き詰めた上を移動車が滑空し、勤務時間は短く、日用品等は自由に手に入り、定期的に宇宙旅行に参加しているという夢のような世界、正に天国です。

これは恐らく地球上の誰もが憧れ、求めている世界なのだと思います。なぜ、このような世界を創造できるのでしょうか？

それは、宇宙を創造した「英知」の存在を認め、宇宙に働く絶対的な「法則」を学び、そこに自己の存在理由を求めて、自己実現に活用しているからと考えられます。

アダムスキーは、この「宇宙の英知」と「宇宙の法則」などを合わせて、「宇宙の意識（意識）」言っているのです。

一方、地球人は、宇宙の意識によって創造されながら、人類の多くが、「なぜ生きるか？」という視点での人類共通の目標を見出し得ず、そこに興味を持ち学んだ人々であっても、スペースプログラムの知識の断片を知り活用しているにすぎません。

その結果、天国など夢の夢、戦争と破壊を繰り返し、精神的には数千年前と変わらず、低空飛行を続けている状態です。

その理由は、アダムスキーが答えています。宇宙の意識（意識）と心（エゴ）が分離しているからだということです。人間の心は、宇宙の意識を理解し学ぶべきであり、自己の存在ばかり主張していて、軸足をそこに置いては、自己矛盾や人との対立が起こり、不愉快で混乱した世界になるということです。

これが、極めて単純明快に人類に知らされた「生きるための真理」であり、これを伝えることがスペースプログラムの大きな軸の一つであったと考えられます。

宇宙の意識に軸足を置くための方法論が「生命の科学」であり、それを地球へ授けてくれた意義と受け手としての対応を、私たちは深く考えなくてはならないと思います。

「言葉に注目」

＜ 同胞や地球人としての私自身がつくづく情けなくなるのであった ＞

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが土星の母船に乗船した際、一人の男性から地球人の行動はときどき不合理に見えるとして、地球人は、自分こそは正しいと神に祈りながら数千年間兄弟を殺している。地球上の生活が地上の地獄であるなら、自らを責めるべき。もっと迅速かつ大規模な方法で地球の同胞を殺傷する方向に向かって金と力を浪費している。こんな残酷な破壊のために神に祈る。・・・等々の話を62歳になって間もないアダムスキーは聞かされます。

こうしてアダムスキーは、冒頭のような感情になったということです。そして、「ある程度の十分な数の人が自己の本質を認識し、魂の底から個人の貪欲と自己尊大の欲求を捨てることによって自己を変化させようとするときにのみ、改善が実現するのである。」と書いています。

「生命の科学」学習のポイントPart73

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の7回目、「人間は半分死人である」です。

冒頭から、「・・・人間は半分死人なのであって、つまり人生の半分だけしか生きていないのです。」と書いています。そしてイエスの有名な言葉、「死者に死者を葬らしめよ」を掲げて、これは死体を運ぶ棺の付添人は死体と同様に死んでいると説明します。なぜなら、死体は生命に対して無意識ですが、それを運ぶ人たちも“宇宙の生命”についてまったく気づいていないからということです。

この辺は、現在に生きる地球人の特徴を良く説明しているところです。肉体人間は、生前中は様々な体験を行い、元気に活動しているでしょう。しかし、背後の意識に気づくことなく生きるということは、肉体人間が、意識に活かされながらもエゴ中心で生きているということであり、半分死んでいるということになるのです。このことは、意識を表出する事が人間の役割であり、そのための器としての肉体に人間がならなくてはならないことを意味しています。

続いて、意識という語を多く書いている理由として、“真のあなた”であるのはこの意識であると語っています。つまり、肉体が死んでも継続する部分であり“魂”と言うこともできるでしょう。

そして、「意識は生活のあらゆる行動の記録係・・・」であるということを知らせ、心が自己を意識と結びつけなければ、記憶は長く保たれないことを伝えていきます。心は結果の世界しか知らないけれども、意識は原因と結果の両方の世界を知っていると教えてくれます。

最後に、「われわれ人間が創造された目的を果たそうと思えば、宇宙の意識というわれわれの生命の他の半分をつちかう必要があります。」と改めて重要性を唱えています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編73>

“白羽の矢が立つ”

人身御供（ひとみごくう）として神が選んだ少女のいる家の屋根に、白羽の矢を立てるといふ言い伝えから、大勢の中から特に選ばれて指名される例えとなっているものです。少し前は、何かと良く使っていた言葉ですが、最近は、あまり聞かないような気がします。

Q：進歩した惑星へ転生するには？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：一言で言えば、自分の生まれてきた役割を果たすことです。それ以外にありません。しかし、そのためには、現在の生き方を疎かにできません。他から尊敬される生き方でなくてはならないでしょう。自分の役割あるいは使命は何なのか、正しく理解する必要があります。

書物紹介

『スノーデン 監視大国日本を語る』 集英社新書

エドワード・スノーデン氏は、CIA、NSAなどの元情報局員で、2013年6月にアメリカ政府が無差別監視をしている実態等を暴露しました。本書は、2017年に一橋講堂で行われたシンポジウムの内容です。それによれば、アメリカ政府から日本へXKEYSCORE（エックスキースコア）と呼ばれる新たな監視技術が提供され、インターネットを介した情報の総てを掌握し調べることができるようです。これらの事実は、知っておく必要があります。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 2019年1月12（土）、3月16日（土）、5月11日（土）、7月6日（土）、9月28日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

12月は何かと多忙ですが、どうにか予定通り発行出来て安堵しています。スノーデン氏の件は、周知の事実であることを知る必要あり。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第73号>

発行日 平成31年1月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人とのお見知り）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキー没後半世紀が経過し、彼と関連するスペースピープル（SP）とのコンタクトが新たに表出しないことから、アダムスキー信奉者であっても、他の惑星人と何らかの関係のある話やコンタクトに心を揺さ振られているようです。

アダムスキーに関係したSPとは異なる人々が、地球に来ていることは否定できないでしょう。そして、特定の国々や個人にアプローチをして、何らかのやり取りを行っているかも知れません。それは、一般には知られていないことであり、興味という点では、関心を持つ人がいても不思議ではありません。中には、アダムスキーと何らかの関係があるように装うものもあるかも知れません。

しかし、アダムスキーの体験等を支持する人々であれば、アダムスキーから脱線するような話や、否定するような話に心を奪われてはならないと感じています。

ここで、アダムスキーのコンタクトの意義について振り返りたいと思います。

アダムスキーのコンタクトは、スペースプログラムの一環として行われたもので、これは、他の惑星の一部の人々を地球に移住させて以降、その進歩を見守るために進めて来たもので、今日は、その大きな節目に近づいています。

スペースプログラムの関係者の中心の一人がオーソン（仮名、金星人）で、当初から関わっているようで、今日では、彼を支援するSPが多数加わっているようです。

アダムスキーもオーソンを古くから支援している一人で、その彼が、地球人として生まれ、天空のオーソンと関係して、地球の問題を表出させ、真の生き方を示した「生命の科学」を地球に残したということです。これは、地軸の傾きなど、大きな節目の時期だからと考えられます。

このようなことから、オーソンにつながるコンタクトでなければ意味がないと考えているのです。そこで、「生命の科学」の意義は何なのか、自分に何ができるのかを再考し、着実に実行することが、「宇宙時代」の方向に近づき、自他ともに救われるのではないかと思います。

“言葉に注目”

< 彼も人並みの言葉を口に出すのである！ >

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーの円盤に関する2冊目の書物である「宇宙船の内部」（第2惑星からの地球訪問者の第Ⅱ部）の「はしがき」で、シャーロット・プロジェクトが書いたものです。これは、アダムスキーが、素人鉛管工として働くときパイプがいうことをきかなかったり、愛用のハンマーを探し出せなかつたりすると、アダムスキーが口にしてたということです。例えば、「こんちくしょう！」というような言葉を口にするものと思われれます。しかし、彼のイライラはめったに他人に及ばないと言っています。つまり、時には他人にも及ぶのです。

アダムスキーについては、聖人のように見る人がいますが、決してそうではなかったと思います。本文は、その一例として取り上げました。

「生命の科学」学習のポイントPart74

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の8回目、「宇宙の意識と一体化する方法」です。

これについては、「学校その他の場所で物事を暗記するのと異なるものではありません。」と書き、そして、「意識が自分の心に十分に印象づけられたと確信するようになるまで反復して唱える・・・」と書いています。続いて、これを行えば忘れないが、「しかしこれは“宇宙の全体性”においてなされるべきであって、“宇宙的視覚”すなわち“神の目”で見ることによって達成できる・・・」としています。

ここまで要約すると“意識”を記憶するのは暗記によるので、それを反覆すれば印象づくが、それだけではなく、宇宙の全体性という本来のスタイル、つまり、心による記憶ではなく、意識を軸に行うことによって達成できると言っているのです。単に、“意識と一体である”と唱えるだけでは一体となるのは困難であるということです。

次に、「あなたを混乱させるような多くの主義・主張にとらわれないようにしなさい。」と書いています。

これは、宇宙の意識と一体になろうとしても、かつて気にかけて生きて来た事柄、例えば、経済、風習、健康などに関する事柄が気になってしまいます。しかし、そんなことは心配するなということです。それらは、意識と一体になるならば、どうにかなるからです。

そして、「これまであなたの心中によく起こっていたのと同じ種類の反応を期待してはいけません。」と書いています。つまり、地球的なことで、声で話すことや目に見えることなど、四官が満足するような反応を期待するなということです。しかし、意識と一体化すると、花の生命を知覚したり、結果を生み出した英知にも気づくようになると説明しています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編74>

“木を見て森を見ず”

物事の細部に気をとられて、全体を見ようとしないうえから大局を見失う例えです。このようなことは、良くあることです。しかし、細部を見なくて良いということではなく、全体を見ることを忘れるなど解釈したいところです。これは、「生命の科学」解釈にも言えることです。

Q: 「生命の科学」学習会の目的は？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A: 「生命の科学」は、個人学習が基本です。浅草では、誰かが、先導的に教えるものではなく、学習者が集まって、自己の理解と他者の理解を比べ、実践を意図しながら多角的に学んでいくものです。従いまして、自己学習がなければ、実入りは少なくなります。

書物紹介

『スエデンボルグ』 鈴木 大拙 著 講談社文芸文庫

スエデンボルグとは、スウェーデンボルグ（1688～1772年）のことで、スウェーデンの神秘家として知られていますが、50代前半までは科学者として傑出した天才で知られていました。しかし、56歳の時に突然彼の面前に“神”（代理人）が出現し、かつてのヨハネのように映像や霊的な体験をさせられ、神秘家として多くの著書を残しています。仏教学者の大家である著者が、本書を書いていることにも意味があります。真実を感じる1冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 2019年3月16日（土）、5月11日（土）、7月6日（土）、9月28日（土）
11月9日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

勤務、現役最後の通信となりました。仕事は一旦退職し、新たな職場で継続しますが、本通信も変わらず継続いたします。

URL: <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第74号>

発行日 平成31年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）